

## ソーラン節（北海道）

明治30年(1900年)代より鯨場の唄として歌われていた。この「ソーラン節」そのものは、鯨場の移動とともに変化して、各種各様の唄があるとともに、踊りもそれにつれて変遷し、各地独特の踊りが作られ、現在では約10種の踊りの形態を見ることができる。

踊りの形態は、おおよそその地方の人々が過去の経験と、鯨の魚態を模して作ったもので、地方独自のものでなく、一カ所のものを変化したにすぎない。約100年前には日本海沿岸(北海道の南西部)松前、江差、久遠、寿都の地方が鯨の本場で、漸次この方に移動し、岩内、余別、古平、余市と、また小樽、石狩、増毛、留萌、焼尻島、利尻島、礼文島と年ごとに北方に移動した。北海道では現在各地とも、昔日の鯨の大漁どころか1尾もとれない漁場がある状況であるが、唄は昔日をしのぐほど歌われている。

前述のごとく鯨場の移動とともに、唄も踊りも多種多様であることは当然のことで、またこれを一本化して北海道の代表「ソーラン節」を定めることも意味がないし、また困難であろうことはいうまでもない。

しかしながら、元来この踊りの形態は、最も自然の音律に合わせて、鯨漁の素ぼくな姿を表現する動作を配列したもので、その基本的な形態は10種あり、それぞれ共通点が認められるので、その共通性があり多くの人々に踊られている形を示すことにする。

明治30~40年ごろ積丹半島(岩内-古平)の沿岸の漁師が、鯨の大漁時(一度に数屯の鯨の捕獲)に、短時間に建網を浜から沖に張り、その網に鯨がはいったら汲船を建網にそって漕ぎつつ、杵網(建網の先端に魚を集めるために袋にした網)に網起し(建網にはいった鯨を杵網に網や網についている網をたぐり、杵網に鯨を集める作業)をして鯨を集め、その集まった鯨を汲船に移す。移された鯨をスコップでモッコにすくい、背越に投げこみ、これを陸に運ぶ(沖の場と浜辺とは異なる)のである。そのモッコにいっぱい入れると生鯨のために45kg~55kgの重量で、この作業に従事するのはだいたい女衆なので重労働である。大漁であればあるだけ網起しから陸揚げまで「ソーラン ソーラン」の掛け声で一挙にかたづける。大漁の喜びと仕事の能率をあげるための自然的なかけ声から生まれたものである。



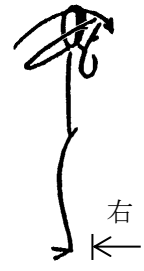


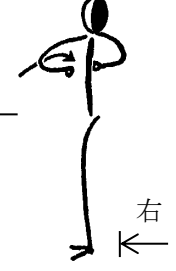










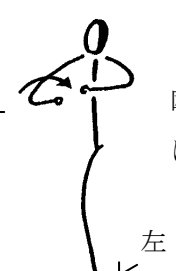


青森県上北郡野辺地町に「ヤーレンソーランソーランソーラン太鼓叩いて法華宗になれば茶屋の女郎衆は皆黄金ヨーヤサドッコイショアドッコイショ」と歌う古風な「荷上げ木遣り唄」があり、ソーラン節を歌うときの建網漁法が青森県の南部領から持ちこまれたことと併わせ考えると、ソーラン節も南部領から移入したものであろう。現在の三味線入りのソーラン節は江別の民謡家今井篁山が作ったものと云われている。




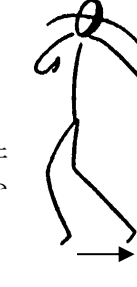
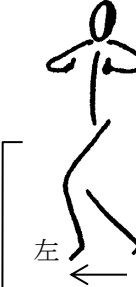


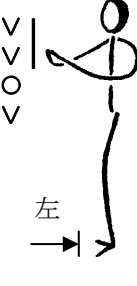

この踊りは「ソーラン ソーラン」のかけ声で汲船を漕ぎ出し網起し、さらにモッコに投込み相当重量のあるモッコをあえぎあえぎ歩きながら運ぶ。そのため汗が出るので額を袖で拭う最も自然で素ぼくな形を、唄に合わせて踊ったものである。

# ソーラン節

- ◆ 隊 形：輪おどり。
  - ◆ 進行方向：反時計まわり。
  - ◆ 踊り始め：進行方向をむき、前奏8呼間聞いて“チョチョンがチョン”を2回行い、踊り始める。
  - ◆ 踊り方
- ① エンヤーレン ソーラン  
右足を1歩踏み出し、両手を握って、櫓を押す。次に左足を右足に引き揃え、両手を胸前にひきつけて上体をおこす。図(1)(2)
  - ② ソーラン ソーラン ソーラン ソーラン  
①と同様に左、右と、櫓こぎを2回行う。図(3)~(6)
  - ③ ハイハイ  
その場で“チョンチョン”と手拍子を2回行う。図(7)
  - ④ 沖の鷗に  
右足を右斜め前に踏み出し、右手を右下に出して上体を前に倒し、左手を右手に添えて網をたぐる動作を行い、次に左足を右足横に揃え、両手握って右胸の前で肘を張る。図(8)(9)
  - ⑤ 汐時間えば  
左足を左斜め前に踏み出し、④の反対動作。図(10)(11)
  - ⑥ 私しゃ発つ鳥  
右足を右斜め前に踏み出して、両手で鯁をすくう動作をする。次に左足を右足に揃えながら、右肩越しに鯁をすくい上げ、肩に背負った“かご”に入れる動作をする。図(12)(13)
  - ⑦ 波に聞け  
左足を左斜め前に踏み出し⑥の反対動作。図(14)(15)
  - ⑧ チョイ ヤサ  
その場で“チョン”と手拍子を1回行い、両手の親指を胸のかごのひもにかけるようにし、右足を軽く前に出しながら、肘を張る。図(16)(17)
  - ⑨ エーエン ヤー アン  
左足を1歩踏み出し右足を軽くトンとつける。次に右足を1歩踏み出し左足を軽くトンとつける。図(18)~(21)
  - ⑩ サァー アノ  
左、右と2歩前進する。図(22)(23)
  - ⑪ ドッコイショ  
左足ではずみをつけ、右足を上げて、かごの中の鯁を左にあける動作を行う。右にくり返す。図(24)(25)
  - ⑫ ハア ドッコイショ ドッコイショ  
左足を1歩後ろに引き、左手こぶしを握った甲で額の汗をふきながら上体をそらす。さらに右足を1歩後ろに引き、右手で額の汗をぬぐう動作を行う。図(26)(27)  
左足を右足に引き揃え“チョチョンがチョン”と手拍子を3回行う。図(28)

以上をくり返す。

<p>◆輪おどり ◆反時計まわり ◆進行方向をむき、 前奏8呼間聞いて チヨチヨンがチヨンを 2回行い、踊り始める。</p>	<p>(5) ソーラン 右</p> 	<p>(10) 汐時 反対動作 左</p> 	<p>(15) 聞け 左からかごに入れ 右</p> 
<p>(1) エンヤーレン 右</p> 	<p>(6) ソーラン 左</p> 	<p>(11) 問えば 右</p> 	<p>(16) チヨイ チヨン</p> 
<p>(2) ソーラン 前進一歩 左</p> 	<p>(7) ハイハイ チヨンチヨン</p> 	<p>(12) 私しや すくい 右</p> 	<p>(17) ヤサ 右</p> 
<p>(3) ソーラン 左</p> 	<p>(8) 沖の 網をたぐり 右</p> 	<p>(13) 発つ鳥 右からかごに入れ 左</p> 	<p>(18) エー 左</p> 
<p>(4) ソーラン 右</p> 	<p>(9) 鷗に 両ひじ張り 右胸 左</p> 	<p>(14) 波に 反対動作 左</p> 	<p>(19) エン 右トシ 右</p> 

<p>(20)</p>  <p>ヤー</p> <p>右 ←</p>	<p>(25)</p>  <p>シ ヨ</p> <p>右 ↓ 左上げ</p>		
<p>(21)</p>  <p>アン</p> <p>左トシ ↓</p>	<p>(26)</p>  <p>汗ふく</p> <p>ハア ドツコイシヨ</p> <p>左 →</p>		
<p>(22)</p>  <p>サアー</p> <p>2歩前進</p> <p>左 ←</p>	<p>(27)</p>  <p>汗ふく</p> <p>ドツコイシヨ</p> <p>右 →</p>		
<p>(23)</p>  <p>アノ</p> <p>右 ←</p>	<p>(28)</p>  <p>↓ ↓ ↓ ↓</p> <p>左 →</p>		
<p>(24)</p>  <p>ドツコイ</p> <p>はずみをつけて</p> <p>右上げ ↓ 左</p>	<p>以上をくり返す</p>		